

さあ、私が今あなたにしてほしいことを記そう。礼拝に集まった時には、各々、全ての
人にとって役立つものを準備しなさい。つまり、詩編を歌うこと、教えを説くこと、物語
を宣べ伝えること、祈りを導くこと、洞察力を養うことを、それぞれ備えて集まることに
しなさい。

——コリントの信徒への手紙（一） 14章26節

ルカが伝えた「良い知らせ」

——ルカ伝福音書 訳述——

川上直哉

そうしたことがあった後の日のことです。イエス様は山に登って行かれました。祈るためです。神さまに、夜通し、イエス様は祈りました。そして朝になったので、イエス様はお弟子さんたちを呼びよせました。そして、その中から 12 名を選びました。その 12 名に「使徒」という名前を、イエス様はお付けになりました。

その 12 名は次の通りです。まず、「ペテロ」とも呼ばれたシモン。その兄弟のアンдре。それから、ヤコブとヨハネ。そして、フィリポとバルトロマイ。マタイとトマス。アルパヨの子であるヤコブ。「熱心党」と呼ばれたシモン。ヤコブの子であるユダ。そして、カリオテ村のユダ——彼こそが「引き渡した人」と呼ばれた裏切り者となります。

そして、お弟子さんたちと一緒にイエス様は山から降り、平地に足を付けて立ちました。そこには大勢のお弟子さんたちがおり、また、ものすごい人数の人々がいました。その人々は、首都圏であるユダヤ地方の全土から、とりわけ首都であるエルサレムからやって来ていました。また、海沿いのギリシア都市

国家であるティルスとシドンからも、やって来ていました。その人々は、あるいはイエス様の話を聞くために、また、病気を治してもらうために、来ていました。そこには穢れた霊に振り回されて、周囲に流され有象無象の大衆となっていた人々がいたのです。そして、その人々は癒されて行きました。この大衆化された人々・右も左も弁（わきま）えなくなっている有象無象の群衆は、何とかしてイエス様に触ろうとしました。と言うのも、イエスさまからは不思議な力が流れ出て、人々をさっぱりと綺麗に癒して行ったからです。（どうぞ、この様子を、教会の姿を重ねてイメージしてください）

イエス様はその群衆の苦しい低みから目を上げて、お弟子さんたちを見つめました。そして、こう語り始めたのです。

「幸せ者だ。貧しい人々は。

神さまが取り仕切ってくださる国は、あなたたちのものだ！

幸せ者だ。今、おなかをすかせて苦勞している人々は。

おなか一杯になるぞ！

幸せ者だ。悲嘆にくれて涙を流すあなたたちは。

きっと、笑顔でいっぱいになるぞ！

幸せ者だ。嫌われ、憎まれているあなたたちは。

差別され、いつも責められている人々は。

幸せ者だ。『人の子』である私のために『悪人』とされ、

のけ者にされるあなたたちは。

そんな時には、喜ぶのだ！

飛び跳ねて喜べ！

いいか、よく見て見ろ。天での報いは大きいぞ！

あの連中は、代々、まさにそのように、

預言者たちにしてきたのだから。」

「さて、呪われているのは、富んでいるあなたたちだ。

もうすでに、必要を満たされてしまっている。

呪われているのは、おなか一杯になっているあなたたちだ。

もうすぐ、あなたたちは空腹になる。

呪われているのは、今、笑っているあなたたちだ。

もうすぐ、後悔の痛みに呻（うめ）き、泣きわめくことになる。

呪われているのは、みんなに褒められているあなたたちだ。

あの連中は、代々、まさにそのように、
偽（にせ）預言者たちにしてきたのだから！」

「だが、今、私の声を聴いている人たちに、私は言うておく。
あなたたちの敵を大切にして、大盤振る舞いしてやることだ。
あなたたちを憎むあの人々に、美しく親切なことをしてやれ。
あなたたちを呪ってくる人々を、心を込めて祝福してやれ。

悪意をもって向かってくる人の、その幸せを思い
神さまへ とりなしの祈りを ささげてやれ。
頬を殴る人がいたなら、反対の頬を向けてやれ。
上着を奪おうとする人に行き当たった時は
下着も奪おうとするだろう。その通りにさせてやれ。
求める者には与えてしまえ。誰にでも、そうするのだ。
あなたたちが持っている物を欲しがる人がいたら
返してもらえるかどうかなど忘れて、渡してしまえ。

誰かに対して、
『あいつらは、こうすべきだ』と思うときには
その通り、その『誰か』に してやることだ。」

「なあに。あなたたちを大切にしてくれる人を
あなたたちが大切にしたところで、
そこからどんな御利益が得られるものでもないだろう？
神さまからの御利益からは まったく外れているはずの
あの頓珍漢な大馬鹿者でも、
自分を大事にする人を、大事にしているではないか。

あなたにとって都合の良いことをしてくれる。そんな人には
あなたもきっと、都合を考えてあげるだろう。
もしそうだとすると
そこからどんな御利益が 得られるものでもないだろう？
あの頓珍漢な大馬鹿者でも、同じことをしているじゃないか。

『この人だったら返してくれる』と期待して
何かを貸してやったところで、
そこからどんな御利益が得られるものでもないだろう？

あの頓珍漢な大馬鹿者でも、同じ頓珍漢な仲間に対し
『こいつだったら返してくれる』と期待して、
何かを貸し与えたりしているぞ。」

「仇敵（きゅうてき）をこそ、大事にするんだ。
敵の都合に合わせてやるんだ。
『どうせ、あいつは』という絶望を捨てろ。
いいから、とにかく 貸してやれ。
そうしたら 大きな報いを得る。
『いと高き方』の子どもになれるぞ。」

いいか、『いと高き方』は、
誰の利益にもならない碌（ろく）でなしにも、
どうにもならない悪人にさえも、
実に優しく親切で 太っ腹でいておられる。
あなたたちは、とにかく、情け深くしなさい。
それはつまり、
あなたたちの父上が情け深くしてくださる、
その通り、あなたたちも、しなければならないということだ。」

「人については良し悪し（あし）言うな。
そうしたら まず、人から良し悪し 言われずに済む。
悪い奴を「悪い」と責めるな。
そうしたら まず、誰から責められることもない。

与えてやれよ。分けてやれ。
そうしたら まず、たっぷり分けてもらえるはずだ。
正規の升をちゃんと使って
升を揺すってぎっちり詰めて
溢れるほどに取り分けて、
懐いっぱい、溢れるほどに、入れてくれるぞ。

自分が測る その升で
自分も人に 測られる。」

イエス様は更にまた、こんな話も、されました。

「盲人が、盲人の手を引けば、どうなるか。

二人一緒に、穴に落ちることになるだろう。

弟子は師匠に優（まさ）らない。

充分整えられたなら、だれでも師匠に追いつくけれど。

おとうと弟子の眼（まなこ）の中に おがくず一つ 目について

自分の眼の真ん中に 埋まった丸太に気づかない。

それはいったい どうしたことか。

「おいお前、その眼の中から おがくずを

俺が取ってやろう」と言って

いったい何をしようというのか。

自分の眼に埋まった丸太ですらも

まったく見えていないのに。

偽善者・嘘つき・立派ぶり！

その眼の中に埋まった丸太を

先ずは取り除けたらどうだ。

そしたら ほら見ろ 今すぐに

人の眼も きれいにできる。」

「良い木になるのは良い実だけ。

駄目な木にだけ 駄目な実になる。

木は なる実で 良し悪し見られる。

イチジクの実は 荊（いばら）から出ず

藪から葡萄の 出るはずもない。

心の中に宝を修めた人ならば

それはきっと良い人で

良いものをいつも 出してくる。

心の中に悪をため込む人ならば

それはきっと悪い人。

悪意ばかりを 外に出す。

心にあふれるものがみな

口からこぼれて出てくるものだ。

口で私に

キリエ、キリエ（主よ、主よ）と言う人よ。
なぜにあなたは、口先ばかりでそう語る。
私の語ることを無視して。

ここまでやって来た上に 私の言葉を耳にして
そうしてそれを実践する。
そうした人のイメージを
ここで語って聞かせよう。

家を建てる季節を思え。

雨期ではなくて 乾季の日照り。
大地は固く 引き締まり
それでもそれを 深く掘り
ついには岩盤まで掘って
それを土台に柱を立てた。

そこに雨季がやって来て
鉄砲水が押し寄せた。
それでもまったく この家は
びくともしないで保たれた。
何しろ土台が良かったからだ。

私の言葉を耳にして それを無視する人はみな
土台もなしに柱を立てる人のよう。
雨期になったら雨になり
雨になったら泥だらけ。
鉄砲水が襲ってきたら
家は流れて ペっちゃんこ。」